

歯科保健基本計画の最終評価と 次期計画の策定に向けて

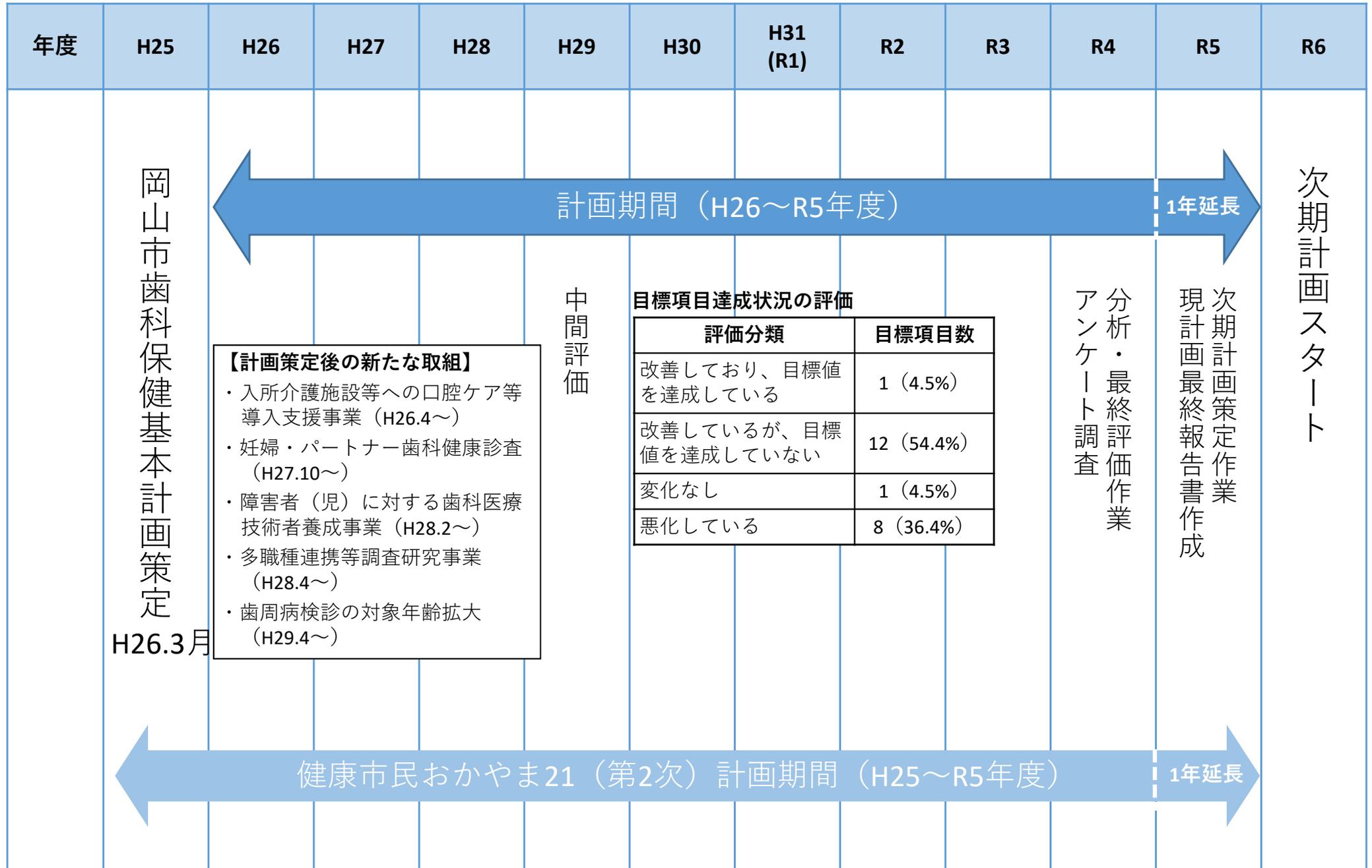


あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



各国内及び各国間の不平等を是正する

現計画策定から現在までの主な経過及び 次期計画策定に向けた今後の予定



岡山市歯科保健基本計画

目標「生涯を通じて、食事や会話を楽しむことができる」

岡山市の
特徴！

重点的歯科口腔保健対策：

口腔機能（お口の働き）の健全な育成、機能の維持・向上

口腔機能（お口の働き）とは…

- ・食べる
- ・呼吸する
- ・話す
- ・表情をつくる

唇・舌・頬
などの筋肉

筋力の低下の予防



歯や歯ぐき

むし歯や歯周病の予防



噛み合わせ

不正咬合への対策

唾液

水分摂取など



- ・ **現計画の目標項目に係る現時点での評価・課題**
 - ・ **次期計画の策定に向けた主な課題認識**

歯科口腔保健の推進に関する国の動向

「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」中間評価における今後の課題

ライフステージ	健康格差の縮小	歯科疾患の予防	口腔機能の維持・向上	社会環境の整備
乳幼児期	○歯周病の有病者率や健康行動、学校におけるフッ化物洗口の実施率等をアウトカムとした 地域格差や、社会経済的な要因による健康格差の実態把握 に努め、格差解消に向け エビデンスに基づく効果的な取組を推進 。	○う蝕の罹患状況は改善傾向だが、社会経済的因子によって罹患状況に健康格差が生じていること、一般的な疾患と比較して高い有病率であることから、 集団全体のリスクを低減させる予防対策が重要 。	○3歳児は一定の割合で遺伝的な不正咬合を発症する報告があることから、目標値についてはより適切なものの検討が必要。	○ 少子高齢化の進展 などの社会情勢の変化も踏まえ、新たな体制による歯科保健業務の推進が必要となったことから、「歯科保健業務指針」の改正等も含めた 新たな枠組みの中での歯科保健対策の取組が必要 。 ○食育に関する取組は、全てのライフステージにおいて重要であるため、個人に対するアプローチのみでなく、 家族単位でのアプローチ が必要。 ○喫煙等の生活習慣が歯周病を引き起こす可能性もあることから、能動・受動喫煙を防ぐ環境を整備することが必要。
学齢期		○フッ化物洗口等によりう蝕有病者率が改善しているが、地域差もあり、社会全体としての取組の継続・推進が必要。 ○中・高校生の歯肉炎の有病者率は改善傾向にあるが、歯周病の発症率が成人期から上昇する実態を踏まえ、 幼少期から一次予防を強化するための取組 が必要。		
成人期		○歯肉炎・歯周病の予防には、セルフケアに加え専門的な指導や管理も必要であり、 定期的な歯科健診が普及するような取組 が必要。 ○喫煙等の生活習慣が歯肉炎・歯周病を引き起こす可能性もあり、 禁煙対策の推進の視点を含めた対策 が必要。 ○う蝕は、依然として未処置歯及び有病率が高い水準にあり、 成人期においても継続的なう蝕予防及び早期治療が重要 。	○口腔機能に着目した取組は、主に個人に対するアプローチが実施されているが、今後は、 集団に対するアプローチや、老人クラブ等の集まりの場を活かしたアプローチ等 の検討が必要。	
高齢期		○ 現在歯数の増加に伴い、歯周病だけでなくう蝕にも罹患する可能性が高まる ため、現在歯が健全な状態を維持するための取組が必要。		
要介護者・障害者(児)		○定期的な歯科検診の実施に結び付けるため、 歯科専門職による口腔衛生向上のための研修をより一層積極的に行うこと が必要。 ○8割の高齢者入所施設が歯科訪問診療を利用しており、 歯科訪問診療の際に、併せて定期的な歯科検診を実施する方策等 の検討が必要。 ○障害者(児)や要介護者について、医療関係職種や介護関係職種等との連携を図りながら、個別の課題を把握した上での対応が必要。		

令和3～4年度の予定

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
健康市民おかやま21		保健福祉委員会	アンケート項目案決定	アンケート項目決定		アンケート原稿作成	アンケート発送・回収	素集計		分析		
歯と口腔の健康づくり 推進協議会	第1回協議会			第1回協議会					第2回協議会			